

「小内」便り 第37号 平成27年9月

特定非営利活動法人 小内プロジェクト(理事長 安福孝昭)



連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小内4579-3

安佐小内集会所

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

8月からスタートした「田舎暮らし体験塾」には31名が申し込み、静かな農村の中で生き生きとした姿が見えます。農をベースにした昔からの田舎の暮らしや文化を生き生きと体験する塾生の姿を見て、農業は人を元気に、ハッピーにする産業であること実感します。小さな種から芽が出、花が咲き、実をつける。農は感動や楽しみを与え、感謝の念を覚醒させる。手をかければ、かけるほど応えてくれ、愛おしくさえ思える、農業は農産物を育てる技、その基本は愛ですね。農に思いを馳せ、食事に感謝の念をもって戴きましょう。

目次

「田舎暮らし体験塾」開講	P 1～3
第2回田舎暮らし体験塾	P 3～4
白島小学校農業体験(稲刈り)	P 4
共同募金、テーマ募金についてお礼	P 5
10月、11月の行事予定	P 5
小内情報	
・敬老会	P 6
・養山八幡神社秋季大祭、吹き囃子行事	P 6
・奉納芝居「昭和劇団」と奉納神楽	P 6
集落の現況⑤ 上楓原集落、西部集落	P 7
編集後記	P 8

「田舎暮らし体験塾」開講

農業や田舎に関心があり、田舎の暮らしやまちおこし等ある程度の志や関心を持つ都市住民を募集、1年間(8月から来年3月まで10回のカリキュラム)、小内の暮らしに根付いた行事、文化を体系的に体験する「田舎暮らし体験塾」が8月22日(土)スタートしました。田舎の暮らし、四季折々の行事、文化を小内で体験することにより、移住の見極め、ビジネス起業、町おこし等、塾生のライフスタイルの見直しの一助と小内の活性化が目的。市内各区や廿日市の都市住民31名が応募。

第1回目は塾生25名が参加(別に見学者1名、子供3名)、地元のスタッフもほぼ全員の18名が出迎え、歓迎した。開講式、オリエンテーション、記念写真に続き、地元住民や

安佐北区農林課職員の指導で近くの農園でそばの種まきとハクサイの種まきを体験、午後は住民の説明など聞きながら、養山八幡神社～水車の里～炭焼き小屋、(窯)～途中の色づいた棚田～旧小河内小学校を徒歩で約2時間かけて見学した。

塾生は男性19名、女性12名、20代から60代まで現役、リタイア組、多様な職業、職歴、価値観を持ち、専門性や人脈、情報、ネットワーク等「都市の力」が小河内を変えることが期待される。塾生にも田舎の魅力、生活の知恵や「生きる力」、新しい生き方を学ぶ。この塾が塾生の明日と小河内の未来を創造することを期待する。



来賓、塾生、地元スタッフ、全員で記念写真



開講式で挨拶する安福理事長



来賓、立岩安佐北区長の祝辞



そばの種まき



ハクサイの種まきを指導するスタッフ



小河内見学、養山八幡神社



炭焼き窯前で炭焼きの説明をする渡辺前理事長

第2回、田舎暮らし体験塾

第2回田舎暮らし体験塾が9月5日（土）行われ、塾生23人が参加した。安佐北区農林課技師による野菜作りを講義、スタッフの指導によるミニ耕運機で畑づくり、マルチの穴あけ、大根の種まき、前回蒔いたハクサイの移植、そばの間引きを行った。昼食時には早速間引きそばを塾生自ら茹で、戴いた。午後も講義に続き、農園で猪柵設置後、集会所に帰り、「小河内の今」のスライドを見て、4班に分かれて自己紹介や意見や情報交換を行った。次回は10月3日（土）稲刈り体験を行う。



ミニ耕運機で畑づくりを体験



マルチの穴あけと大根の種まき



前回蒔いたそばの苗を間引く



猪柵設置を体験

白島小学校農業体験（稲刈り）

9月15日、白島小学校5年生76名が5月に植えた稲刈りを体験した。地元のスタッフから米作りについてのお話を聞き、その後田んぼで稲刈りや昔ながらのはで掛けも体験した。



スタッフから稲刈りの仕方を学ぶ



鎌を使って稲刈り体験



コンバインで稲こぎを手伝う

共同募金、地域テーマ募金のお礼

小河内小学校の閉校に伴い、記念誌作成費用を共同募金の地域テーマ募金を利用、住民や小河内小学校卒業生等に広く募金を呼びかけました。この募金実績や募金の使途については本便り35号（平成27年5月発行）で報告しましたが、再度説明します。

昨年11月、広島県共同募金会に本テーマ募金について、記念誌作成代（150万円）、閉校行事等の諸費用（50万円）、合計事業費200万を見積り、申請しました。

この内、記念誌作成代（150万円）の半分（75万円）を一般からの募金目標額とし、同額（75万円）を県共同募金から寄付（ギフト）してもらい、計画で申請しました。

募金期間は1月1日から3月31日まで、住民や小河内小学校卒業生、企業、関係者等に幅広く募金をお願いしました。その結果、383件1,769,954円の募金があり、計画（目標額75万円）を大幅に上回る実績でした。皆様のご理解、ご協力が予想以上に大きく目標額（75万円）を超えたため、共募からの寄付は必要なくなったのです。大幅なご協力に重ねて厚く御礼申し上げます。

10月、11月の行事予定

1、ハウス食と農と環境体験教室

日 時	行 事 等	場 所
11月15日（日）	収穫祭、餅つき	小河内地区内

2、白島商店会酒米づくり

日 時	行 事 等	場 所
9月13日（日）	稲刈り、さつま芋芋ほり	小河内地区内

3、田舎暮らし体験塾

回	日 時	カリキュラム
第3回	10月 3日（土）	棚田で稲刈り
第4回	10月31日（土）	柿もぎと吊るし柿の作り方（秋季大祭前夜祭）
第5回	11月21日（土）	地域内巡回（消滅集落など）、ワークショップ

4、その他、外部への出店等

日 時	行 事	場 所
10月11日（日）	農産物市	野外活動センター
10月10日（土）～11日（日）	公民館ふれあい祭り	安佐公民館
10月12日（月）	地区民運動会	旧小河内小学校
10月17日（土）	柿もぎ（農・食・医 同源研究センター）	小河内地区内
10月31日（土）	昭和劇団奉納芝居、神楽	小河内集会所
11月1日（日）	秋季大祭 吹き囃子行事	養山八幡神社
11月29日（日）	安佐北元気フェスタ	安佐北区民文化センター

小河内情報

敬老会が行われた（コミ協、社協主催）

9月20日、小河内地区の敬老会が行われ75歳以上の対象者164名中、69名が参加、飯室小学校児童のお祝いの披露や神楽を楽しんだ。



飯室小児童によるお祝いの披露



吉木神楽団による神楽「神楽」

養山八幡神社秋季大祭、吹囃子行事

今年も五穀豊穰と民人の安全に感謝する養山八幡神社の秋季大祭、吹囃子行事が11月1日（日）同神社で挙行される。吹囃子行事の起源は江戸時代1811年と言われ、200年以上続く。平成9年、広島市重要無形文化財に指定された。

近年は子供の減少により、小河内地区を上、中、下の3組に分け順番に担当するようになった。今年の下組が担当する。

奉納芝居「昭和劇団」と神楽

今年も養山八幡神社の秋季大祭のよご（前夜祭）に小河内「昭和劇団」の奉納芝居が午後7時から小河内集会所で、奉納神楽が午後9時頃から養山八幡神社で行われる。小河内「昭和劇団」は昭和3年、村の青年達が田舎に楽しみを、と始め以来80余年にわたり3代、4代に引き継がれている。団員は約30名、以前は地区民ばかりであったが、近年は入団希望者もあり地区外の団員もいる。芝居は村人の自作自演の笑いとお涙の人情芝居、近辺に田舎芝居は少なく、多くのファンがいる。

是非、秋の一時を芝居や神楽に、そして祭りの見物に、田舎の歴史、文化を楽しみにお出かけ下さい。

集落の現況（自治会紹介）⑤

ハウス栽培で農地の景観が大きく変わった西部集落と上楓原を取材、両自治会長に現状など聞いた。

(数字は自治会長より聞き取りしたもの)

自治会（会長）	上楓原（山崎壽邦）		西部（大平定信）	
	現在	昭和15年	現在	昭和15年
総世帯	12	14	15	19
自治会加入世帯（地区外、内数）	11		15（3）	
総人口	21		23	
65歳以上 （高齢率）	12 (57・1%)		18 (78・3%)	
子供（14歳以下）	0		0	
一人暮らし世帯	5		1	
空き家（1年以上）	1		1	
現存する廃屋	1		1	

農業担い手の一人暮らし化や高齢化により農業維持が困難になり、耕作放棄地や空き家が発生、過疎化が進行している。（上楓原自治会 山崎会長）

2年前から活力農業の若い2名が就農され今年度は1名、来年度も1名が就かれる予定。現在の3名も地元西部自治会の行事や活動に、そして小河内地区の各種イベントに積極的に参加されている。これからも彼らと共に活力ある西部にしていきたい、と思っています。

（西部自治会大平会長）

両集落共、子供はいなく、65歳以上の高齢者が大半で少子高齢化問題が共通課題である。



上楓原自治会 山崎会長



西部自治会 大平会長

小河内の農業も変わる

- ・ 田んぼの米作りからハウスの野菜づくりに
- ・ 多品種少量生産農業から少品種大量生産農業に
- ・ 自給用から販売用に
- ・ 兼業農家から専業農家に
- ・ 高齢者から若者も農業に



小河内川のそばのそばの田んぼで稲刈りをする農家



田んぼがハウスの野菜作りに

編集後記

太陽が日本から少しづつ遠ざかり、今年の秋分の日の日出時間は、5時58分、日入は18時07分、昼夜がほぼ同じになりました。秋の日はつるべ落とし、と言われるように、これから冬至まで、どんどん昼間の時間が短くなります。豊かな実りをプレゼントしてくれた田んぼはしばしのお休み、ご苦労様でした。これから小河内は秋祭り、そして冬支度へと移ります。都会にはない季節感を味わえる田舎の贅沢があります。(S)